

WCS用稲極短穂茎葉型品種「つきことか」が芳賀地域で栽培可能であることを実証

要約

極晩生（9月末出穂）で東海以西～九州向きとされる「つきことか」の栽培実証を行ったところ、麦類収穫後の栽培スケジュールにおいても、芳賀地域で栽培が可能な品種であることが考えられた。

○ 展示のねらい

「つきことか」は、茎葉糖分が高く、嗜好性も高いなどの特徴があり、今後の稲WCSの主力となるべき品種であるが、極晩生で東海以西～九州向きとされており、県内での栽培事例はほぼない。そこで、「つきことか」を新たな品種として普及を図るために、晩生の「つきすずか」と比較するとともに、「つきことか」が芳賀地域で栽培可能かどうか確認することを目的とした。

【栽培概要】

令和 7（2025）年 6 月 15 日 播種・育苗（4kg/10a）
〃 6 月 29 日 定植（52 株／坪）
〃 9 月 6 日 「つきすずか」出穂期
〃 9 月 24 日 「つきことか」出穂期
〃 10 月 28 日 収穫

○ 主な成果

表 1 収穫時の調査結果

	つきすずか (黄熟～完熟)	つきことか (糊熟～黄熟)
稈長 (cm)	124. 4	133. 4
草丈 (cm)	157. 1	170. 1
茎数 (本/株)	19. 5	19. 8
水分 (%)	67. 1	70. 4
乾物率 (%)	32. 9	29. 6
重量 (原物 kg/10a)	4, 790	5, 247
重量 (乾物 kg/10a)	1, 576	1, 553
穂重比 (乾物%)	20. 8	4. 4



写真 1 収穫時の草丈の様子
(つきことか)

稈長及び草丈は、「つきすずか」と比較して、「つきことか」が高い数値だった。10a 当たりの乾物重量は、ほぼ同等の結果だった。乾物全量に占める穂重比は、「つきすずか」が 20. 8%、「つきことか」が 4. 4%だった。サイレージの成分分析値について、「つきすずか」は、粗蛋白質・非繊維性炭水化物・可消化成分総量が高く、「つきことか」は、中性デタージェント繊維が高い結果となり、熟期の違いによる影響が見られた。また、サイレージの発酵品質は、両品種とも良好な結果だった。

○ 今後の方向性

本成果をホームページ等で周知して普及を図る。なお、品種の特性上、「つきことか」は、可能な限り早い時期に播種・定植し、11 月以降（出穂から 40 日以上経過後）に収穫するスケジュールが望ましい。

実施機関： 芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 益子町

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315